54・10月
第87号
発行者
根岸岳萃
編集
中村愛風
秋元梁風

吟道月報

社団法人 日本詩吟学院岳風会 認可
神奈川 碩心会 発行

会員数(54・10月現在)

逗子地区 128名
葉山地区 199名
大船地区 60名
合計 387名

私と詩吟

下山口支部 沼田義風

爽やかな今日この頃、私は思い出します、かれこれ十年前の秋のはじめ、隣の新倉さんから家で詩吟をやっているから聞きにきませんかと二・三度誘われ、ある晩いってみたのが入門のきっかけでした。

当時女性ばかり六人で男性は私一人、難しそうだしとてもじかないと尻込みしたのですが、やってみようという気になり、やる以上は一生懸命やらねばと思いました。

最初に九月十日を習いましたが先生の吟を聞いて感謝し、又小学校で習ったこち吹かばにおいおこせよ梅の花……の歌を思い出しました。

今ふりかえってみるにはや十年、先輩方の恩恵により会員も二十数名の故場となりました、皆さん非常に熱心で先生方の熱意により立派に成長しつつあります。

詩吟とは奥の深い難しいものだと思いましたが、吟道は頭脳の運動、又精神修養にも非常によいと思います、詩吟は又人間同志の融和と人格向上にも最もよいものですので自分の体力の続く限り吟道に励みたいと思っております、

木村岳風先生臺参

諏訪吟行会に参加して……村田静風

木村岳風先生墓参諏訪

吟行会に参加して

村田 静風

十月六日あいにくの小雨降る雲リ空の中をバスは出発。2号車は逗子地区の方達で先づは吟声からとマイクロバスは順にまわり日頃の練習ぶリを大いに発揮レていただきました。昼食後はたのレくということで、のどじまんの始まり、さすが吟をなさる方は民謡歌謡曲軍歌まで仲々上手にうたわれるので感心レました。時間のたつのもわすれたのレく過すうち地蔵寺に到着長野県本部の先生方のお出迎えを受け、地蔵寺にて読経御焼香をすませ、木村先生が生前愛されたお庭を拝見後墓地へ向いました。前回参加レた時はやっぱり小雨の降る日で墓地へたどリつくまでの細い道をズルズルすべったリころんだリレて登ったのを思い出レながらすっかリ整地された道をトントンと登ることができ墓地も広く美レくなっているのにおどろきました。

墓前にて碩心会の詩岳風先生の辞世の句を吟じ心ひきレまる思いがいたレました。

岳風記念館では岳風先生の同級生でいらっレゃった竹ノ内岳宗先生のお話を伺いながら岳風先生の遺品を拝見レてホテルに向いました。大宴会場では次々とたのレい余興がとび出レてたのレく和気あいあいの内に終リ、最後に長野の金井岳錠先生の吟を聞き大声をはリあげなくともこんなに人の心を打つ吟じ方があるのかと呆然と聞きほれてレまいました。

吟聖の墓に詣でて作あリ　佐々木岳甫

死生命有リ論ずるに非ず只吟道をレて永遠の命あらレむ　（祖宗範辞世）

諏訪山湖『雨惟に銷され老松』巌凜とレて滴悲レみに勝たリ『岳陵瞰下』洋を望むところ枯草『一阡一碑あリ、是れ』木村岳風の墓吟壇『の大聖このもとに瞑る』　碑は『慈父の如く』吟道を指レ霊は『この丘にあって総師に旁す』

七日は朝から大雨雲におおわれた富士や美レい山々に見おくられてバスはたのレい思い出

さそれぞれの胸に諏訪をあとに致しました。次の墓参には又皆様と御一緒したいと思います。お世話いただきました先生方には大変だったことと存じます。本当に有難うございました。厚く御礼申し上げます。

木村岳風先生の墓参

（一色B）井口文山

十月六日午後二時半ごろ、碩心会一行を乗せたバス二台は、下諏訪にある愛宕山地蔵禅寺に着きました。曇り空ですが、境内は掃き清められ、打水がしてありました。香をたいて下さったのでしょう、その香りに誘われるように、お堂に一同、正座しました。立派な透し彫りの欄間や仕切戸等、禅寺の簡素な中にも由緒ありげなお寺でした。

住職からこの寺と岳風先生について、お話しがありました。読経の中を根岸会長先生はじめとし、次々と焼香をいたしました。

その後、本堂の横にある、県下の三名園の一つであるお庭を拝観いたしました。その奥に滝がありました。その滝は開山のお坊さんが長い行をされた後、杖を立てたところ、そこからこんこんと清水が湧き出したそうです。その滝にうたれ岳風先生は修業され、吟の符づけの構想を練られたということです。

本堂の横手からお墓の間を通り、坂の小径が続いています。坂の両がわには、丈のひくいあざみや、アカノマンマが咲いておりました。登りつめたところに赤松林があり、秋雨に濡れ幹の色が一きわ美しく浮きでていました。その林の中に祖宗範木村岳風先生と宣子夫人の墓碑がありました。その横に「わが墓は……」の歌碑が岳風先生の筆蹟で、きざまれておりました。

黄菊が沢山供えられ、全員が線香をあげお参りいたしました。そしてお墓の先生に聞えよとばかり、わが墓の短歌と碩心会の詩を合吟しました。その間線香の煙がたちのぼっていくて、お墓の上だけが黒々と見えました。

その情景は美しく印象的でした。

お寺から七、八分の所に、木村岳風記念館があります。先生の生家を昭和四十八年に記念館としたのだそうです。ここを管理していらゝる竹の内岳宗先生が、最初から私達を迎えて下さいました。お墓のご案内から、記念館の展示品についての説明、竹馬の友としての岳風先生の生い立ちや、吟道をいかに広められたか等数々の貴重なお話しでした。

私達はかねてより岳風先生については、多くの方から、折にふれお話しはうかがっております。しかし深くは理解できませんでした。こうした遺品にふれ、その場でお話しをうかがうことによって、岳風先生のお人柄や業績の一端にふれる思いがいたしました。しかしそれ以上に八十支の竹の内先生が、だふだぶのズボンをはいて、入歯のない口で、しかもかくしゃくと吟じられたお姿にうたれました。

又私達は幸いにも直接岳風先生に師事された松井岳洋先生が近くにおられます。更に又敬場での各先生からのご指導を通し、師から弟子へと吟道というものが伝えられている事がわかりました。

私が詩吟に心ひかれるのは、発表会等で、初級の人も上級の人も、それなりに一吟を一生懸命に吟じるということです。頑心会のどの先生からも、そのように教えられて来ました。

下諏訪の一泊二日の旅を通して、事前の準備、道中でのお世話、又吟友の方々の協力、こうした一生懸命につくす生き方こそ、吟道ならではと教えられる事が沢山ありました。

本当にありがとうございました。

（入　会）

（銀詠支部）高橋　文子　逗子市久木六―七―七（〒二四九―〇一一）
（堀内支部）明石　頼昌　葉山町一色（〒二四八―〇一一）
（滝の坂支部）千葉　英男　葉山町一色一〇〇―三（〒二四八―〇一一）
（〃）伊東暉久弥　葉山町一色五二七（〒二四八―〇一一）

（退　会）

矢島瞭泉・河内貞郎・大水妙子